日本共産党市議団

小野寺幸恵・原　啓司・冨岡　隆

小野寺　幸恵
議　員

●市営住宅の入居促進

単身者の申し込みが増加している一方、単身者が入居できる基準の戸数が少ないため基準緩和を求めました。また、7・8年も当たらない市民もおり、抽選回数を増やすことも提案。令和2年の抽選時までに見直すことになりました。

●旧トマモールの解体工事

大気汚染防止法違反をした前元請の朝日建装が、責任を下請に転化していることを批判するとともに、10・20年後に健康被害が発生した場合に対応できるよう、旧トマモールに関わる市の資料の永年保存を求めました。

●カジノを含むIRについて

IR誘致の条件である住民との「合意形成」を諮る手法について質問。市長は「IRの情報が違いすぎるため、住民投票はなじまない」と答え、市民理解に努力するとの考えを繰り返しました。

冨岡　隆
議　員

●王子製紙工場のばい煙問題

7月14日以降、青白い煙が広範囲にわたって工場周辺や緑町付近に流れ込み、「においが酷く、夜は眠れない」「喘息があり、改善してほしい」などの苦情が市民から寄せられていた問題を取り上げ、「一日も早く市民の苦しい思いを改善するのが市の役割ではないか」「なぜ道の調査が遅れたのか」と迫りました。

佐藤副市長は、「道との調整も含め協議や準備で時間がかかったことで、反省すべき点はあった。環境基準値内なので行政指導をもって操業停止にはできない」と答弁。市長は、「健康に影響するものではない基準値内の状況だが、周辺のみなさんが不安や危機感を感じているなら、安全の説明責任は市にある。きめ細やかな対応をしなければならない」と答弁しました。

原　啓司
議　員

●医療事故の再発防止策

医療事故を無くすための対策として市立病院におけるインシデント、アクシデントの報告体制と、どのようにして教訓を全体で共有していくかについて質問しました。

●戦車などの公道自走訓練

商業港の軍事利用と戦車などの公道自走訓練に対する市の見解を求めました。市としては、それぞれの機関から許可され実施されたものに対し何かを申し入れる立場にないが、市民生活への影響という観点から自衛隊に対し十分配慮するよう伝えたいと答弁しました。

●戦闘機の騒音について

米軍機の訓練移転に関連して、市街地上空の戦闘機の騒音に対する対応について質問し、あらためて原則的に市街地上空の飛行、低空で飛行を避けることを確認し、戦闘機の飛行情報については速やかに報告されるよう求めました。

NHKから国民を守る党

触沢　高秀　議員

9月定例会での一般質問では、**苫小牧市におけるNHK受信契約について**質問をしました。庁舎内のテレビの設置台数、契約状況は19年9月現在で33台の受信契約を締結、265，297円の支出をしているとの回答。19年3月、5月において、ワンセグ付携帯、カーナビの受信料裁判があり、所有しているだけで受信機の設置とみなし、契約の義務があるとの判決が下りました。それを踏まえ苫小牧市が保有するワンセグ付携帯、スマートフォン、公用車に設置されているカーナビについて受信契約を結んでいるのかと質問。市側は、契約していないという回答でしたが、今後において、ワンセグ付携帯、スマートフォン、カーナビに関する契約について、法に基づき契約が必要であれば適切な対応をおこなっていかなければならないと回答。今後、市がNHKとどのような協議をし受信契約が締結されるのか注視していきます。